令和8年10月 総合教育会議 議事日程

1　日　時　令和8年10月21日（水）午後2時00分から

2　会　場　伊予市役所4階　大会議室

3　出席委員

伊予市長	武　智　邦　典
教育長	上　岡　　孝
教育長職務代理者	矢　野　ひとみ
教育委員	髙　橋　久美子
教育委員	長　見　美　保
教育委員	上　田　晃　義

4　会議に出席した事務局職員

事務局長	小笠原　幸　男
学校教育課長	中　塚　正　洋
学校教育課指導主幹	谷　岡　　淳
学校教育課指導主事	白　石　貴　士
学校教育課課長補佐	森　下　　勝
学校教育課課長補佐 兼学校給食センター所長	赤　石　雅　俊
学校教育課課長補佐	宮　田　勝　秀
社会教育課長	北　岡　康　平
社会教育課課長補佐	西　岡　美　加
社会教育課課長補佐	松　本　憲　文

5　協議事項等

⑴ 体育館空調整備（第1期）に係る熱源等方式の検討について

⑵ 体育館空調整備（第2期）に係る設置校の検討について

午後2時00分　開会

○小笠原事務局長　それでは、ただいまから令和8年度第1回目となります伊予市総合教育会議を開会いたします。皆様、御起立をお願いいたします。一同、礼。

○一同　お願いします。

○小笠原事務局長　御着席ください。開会に当たりまして武智市長から御挨拶をいただきたいと思います。

○武智市長　失礼いたします。前段の会議の後でお疲れのところと思いますけれども、よろしくお願いをしたいと思います。

今日の協議事項は、1つに体育館空調整備（第1期）に係る熱源等方式の検討についてと、2つ目が体育館空調設備（第2期）に係る設置校の検討についてということを協議いただくようになっております。それでは、御挨拶を申し上げます。

上岡孝教育長をはじめ教育委員の皆様におかれましては、日頃より伊予市の学校教育及び社会教育の推進に御尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

また、第2次総合計画後期基本計画、まち・ひと　ともに育ち輝く伊予市の将来像の下、教育分野において、3万人が住み続けたくなる環境づくりや、3万人の力を結集できる意識改革といった未来戦略の一翼を担っていただきながら、学校教育環境の整備充実や生涯にわたり学習できる環境づくりに向け、様々な事業を展開していただいておりますことに重ねてお礼を申し上げます。

さて、本日の総合教育会議は、前段で申し上げた協議内容でございます。こういった重要な課題について、市長部局と教育委員会が共通認識を持ち、連携して取り組んでいくことは非常に意義深いものと認識しております。教育委員の皆様とともに率直な意見交換を行いながら、今後の方向性をともに考えてもらいたいと存じます。

本日は、それぞれの視点で御検討いただき、忌憚のない御意見を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。令和8年10月21日、伊予市長武智邦典。よろしくお願いいたします。

○小笠原事務局長　どうもありがとうございました。

続きまして、協議事項に入りますが、伊予市総合教育会議設置要綱第4条の規定によりまして、市長を議長といたします。以下の協議につきましては、武智市長の進行でお願いいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○武智市長　協議に先立ちまして本日は、愛媛新聞社の1名の方から傍聴要望がありましたので、伊予市総合教育会議傍聴要領に基づいて御報告させていただきます。

なお、傍聴人が同要領第3条に規定している行為をした場合には退場を命じることがございますので、御注意ください。

それでは、早速でございますけれども、協議事項に入らせていただきます。

協議事項の1、体育館空調整備（第1期）に係る熱源等方式の検討について、事務局から説明をお願いいたします。中塚課長。

○中塚学校教育課長　それでは、私のほうから協議事項1、体育館空調整備（第1期）に係る熱源等方式の検討について、資料1の1ページ目を御覧ください。背景につきまして、私から御説明申し上げます。

国は、学校施設の在り方として、児童・生徒の学習、生活の場であるとともに、災害時には地域住民等の生命の安全を確保する避難所としての活用を想定し、防災機能の強化及び耐災害性の向上を図る必要があるとしています。

昨年、令和7年6月に閣議決定された第1次国土強靱化実施中期計画では、避難所となる公立小・中学校の体育館等における空調設備の設置率について、令和17年度までに100％とする目標が掲げられておりましたが、高市総理大臣が本年8月の熊本地震非常災害対策本部会議において、この目標を令和13年度中へと前倒しする旨の発言を行ったところであり、国全体でより一層のスピード感を持った整備が求められています。

全国的な学校体育館の空調設置率を見ますと、令和7年5月時点の22.7％から、本年5月時点では31.7％と前回比9.0％の増加となり、着実な進捗が見られております。

本県内におきましても、本年5月現在、今治市、四国中央市、鬼北町の3市町が設置率100％を達成しているほか、他の市町においても空調設置に向けた取組が活発化している状況でございます。

こうした中、本市におきましても、近年の酷暑、猛暑に伴う熱中症等の事故を未然に防ぐため、児童・生徒の学習環境の改善と、災害時の避難所施設としての機能を両立させるべく、体育館等への空調設備設置に向けた検討を進めてまいりました。

今年度は、市内4つの中学校、港南中、伊予中、中山中、双海中と郡中小学校の計5校において実施設計を行っており、来年度以降、順次、設置工事に着手する予定でございます。

続きまして、具体的な設置計画や熱源方式、そして今後の課題等について、担当課長補佐より説明を申し上げます。

○武智市長　宮田課長補佐。

○宮田学校教育課課長補佐　失礼いたします。

以降、2の「設置計画」から6「今後に向けて」、につきまして、私、宮田のほうから説明をさせていただきます。まず、設置計画につきまして、資料2ページを御覧ください。

背景の中でも御説明いたしましたが、本年度、市内4中学校と郡中小学校への空調設置工事実施設計を行い、令和9年度以降、設計を行った5校への設置工事の実施及びその他市内小学校屋内体育施設への空調設置工事設計を進めてまいりたいと考えております。

3の空調方式の検討につきまして、体育館への空調設備導入に当たりましては、大空間かつ高い天井構造という建物の特性を踏まえる必要がございます。

現在、ＥＨＰが電池式、ＧＨＰがガス式になりますけれども対流式、置換式、輻射式ハイブリッド、これも電気式、ガス式の主に5方式の中から、各学校の敷地条件や建物構造、利用実態、ランニングコスト等を総合的に勘案しまして最適な方法の選定を進めているところでございます。

また、空調システムの内容やメリット等詳細につきまして、最後に添付しております別紙空調システム能力比較表を御参照いただければと思っております。

4番目、想定している空調方式につきまして、現時点において各学校に設置を想定しております空調方式でございますが、郡中小学校体育館へは室外機の設置スペース及び近隣への稼働音への配慮が必要と思われるため、3の中にあります図の1番、冷暖房対流式（電気式）を想定しております。

港南中学校体育館、伊予中学校体育館、双海中学校体育館の3施設につきまして、災害時の避難所としての快適性及び学校運営や社会教育活動等に適していると考えます、表でいいますと5番目、輻射式冷暖房ハイブリッド、こちらはガス式を想定いたしております。

ただし、この3校につきまして、現在設計の途中でございまして、室外機の設置スペースの都合などから、空調方式については変更する可能性もございます。

3ページを御覧ください。

5番目、6番目、課題及び今後につきまして、財政負担の最適化を図るため、イニシャルコストだけではなく将来的なライフサイクルコストの抑制と災害時の停電時における熱源確保などの災害時対応力を両立させることが必要と思っております。

さらに、学校の授業や地域開放への影響を最小限にとどめる効率的な施工スケジュールの策定など、コスト、防災、工期、各面を調和させた総合的な調整が必要と考えております。

今後も、導入、維持管理、機能性等、勘案した上で、関係部署と協議を重ねながら、学校ごとに適切な熱源方式を選定してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○武智市長　ただいま説明のあった内容につきまして御質問や御意見等がございましたら、挙手の上、御発言ください。よろしくお願いいたします。分からないことがあっても、そういう御質問の内容でいいですからお願いします。

基本的に、ガスと電気を併用したハイブリッド方式と、電気だけ、ガスだけ、というのを、一応どれぐらいの差異があるか金額をはじき出すように、指示はしていますけれども、基本的には有事の際に電気が止まったときにはハイブリッド方式のガスも併用した方がいいであろうという判断ですけれども、やはり財源あってのことですので、基本的にはそれがかなうのであればハイブリッド方式を採用したいという意見も内々では出ているみたいですけれども、それプラス次の(2)の事案でその設置の順番とかもろもろ決めていくのですが、まずはそういった有事の際の枠組みとか夏場の暑さ対策とかそういったことで、あくまでも子供中心ではあるけ

れども有事の際は地域住民の命を守るというようなところもありますので、そこらをお含みいただきながら、御質問があればよろしくお願いをいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○武智市長　特に今のところ、この瞬間はないとしても、また後でもし何か気づいたら御質問ください。それでは、続きまして協議事項2、体育館空調整備（第2期）に係る設置校の検討について、事務局から説明をお願いします。中塚課長。

○中塚学校教育課長　それでは、協議事項の2、体育館空調整備（第2期）に係る設置校の検討について、でございます。資料2の1ページ目を御覧ください。

まず、背景について、私、中塚のほうから御説明を申し上げます。国の方針等については、先ほど議題1と重複するため割愛をさせていただきます。

現在、本市におきましては、先行して市内4中学校と郡中小学校の計5校への空調設置に向け、設計作業等、整備を進めているとこでございます。

しかしながら、全ての児童・生徒が安全で快適に活動できる環境の確保及び地域住民の防災拠点としての機能強化を市内全域で実現させるためには、先行して設置を進めている5校以外の学校についても、体育館空調を順次整備していく必要がございます。

そのため、第2期目の設置対象校や設置時期など、具体的な検討に入るものでございます。

それでは、本市の学校体育館の現状以降につきましては、担当課長補佐より御説明を申し上げます。

○武智市長　宮田課長補佐。

○宮田学校教育課課長補佐　それでは、2、本市の学校体育館の現状以降につきまして、私から御説明をさせていただきます。

資料1ページに、市内小・中学校13校全ての体育館におきまして現時点での空調の設置はございませんが、議題1で御説明させていただきましたとおり、港南中、伊予中、中山中、双海中、郡中小への5校へ先行して設置を行うものとしております。

3番目、今後設置する学校選択と検討課題につきまして、先行設置を予定している5校以外の小学校8校への空調設置につきましては、先行設置校の進捗状況を踏まえつつ、限られた財源の中で効率的かつ計画的に事業を進めるため、以下の事項について検討を進めてまいりたいと思っております。

まず1番目に、設置対象校の選定と優先順位。今後の小学校体育館への空調設置（第2期目）におきましては、地域の避難所としての重要性や地理的条件、更新時期等を踏まえまして、南山崎地区の南山崎小学校、北山崎地区の北山崎小学校、南伊予地区の伊予小学校、双海地域下灘地区の下灘小学校への設置について優先的に進めてはどうかと考えております。

ただし、決定に当たりましては、現在審議会のほうで検討中でございます、伊予市適正規模適正配置等審議会において審議が重ねられております学校の統廃合等の今後の動向を十分に踏

まえる必要もございますため、設置判断や工事等の実施時期については、地域の教育環境や将来的な施設再編の方向を見据えながら、引き続き慎重に検討を行ってまいりたいと思っております。

2番目、空調方式及び財源確保の検討でございますが、空調方式に当たっては、各校の施設条件に適した検証に加え、イニシャル、ランニングコストの抑制につながる効率的な調達方法を検討いたします。

なお、国の補助事業を活用する場合、原則として断熱改修が必須条件となりますので、市費の財政負担が大きくなることが危惧されるため、先行の5校と同様に、断熱改修を必要としない緊急防災・減災事業債の活用を前提として事業を進め、より負担の少ない事業方法を検討してまいりたいと考えております。

3番目、空調設置の時期でございますが、令和10年度までに当初計画をしております5校の整備を完了し、令和10年または11年度には第2期目の空調整備に着手できるよう協議を重ねながら、設置に向けた推進を図っていきたいと考えております。

計画でございますが、既に説明している部分もございますが、現時点で空調設置計画（案）として、先行して設置予定の5校以外の小学校について、令和10年、11年度で第2期目の空調整備として南山崎小学校、北山崎小学校、伊予小学校、下灘小学校に着手できればと考えております。

なお、中山小学校、佐礼谷小学校、由並小学校、翠小学校の4校につきましては、適正規模適正配置等審議会の動向等を踏まえまして、現時点で設計、設置工事ともに未定としておりますが、今後の状況を見極めながら判断してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○武智市長　説明が終わりました。

御理解をいただいたとは思いますけれど、要は第1期工事に港南中学校、伊予中学校、上灘中学校、双海中学校、中山中学校と郡中小学校に手をつけると。熱源の話は、また今後の検討課題ということではありますけど、プラスもし余力があったら今言った南山とか北山とか伊予小といったところに手をつけていくけど、基本的には佐礼谷小学校の2030年、もしかしたら1人転校したから2029年にはゼロ人になるかもしれないという状況なので、今色々な枠で言うと、じゃあ中山統合っていうのもどうなのかなと、佐礼谷の人の意見とかもろもろ聞く必要があると。であるならば、中山小学校、佐礼谷小学校は南山崎小学校に統合になるのかというようなこともありますけど、これはエアコンですから、有事の際の避難施設には、そこの建物がある以上、地域住民は出てくるということで、まず第一に子供たちの熱中症対策とかもろもろということで進めていく順番がそういうふうになっていると。

あとは、どうしても断熱の使用をしないといけない補助金よりも緊急防災・減災事業債の起債を使ってでも、なるべく早くやっていきたいという思いを説明したと、御認識をいただけた

らと思いますが、御質問、また御意見等があったらよろしくお願い申し上げます。

本来であれば、お金があったら一気に全部やってしまうのが筋なので、大体それに順番をつけること自体がおかしいのですが、やはりお財布事情を見ながら、というのが正直寂しいところです。それはしょうがないとして、今の順番で方向づけをしていきたいという教育委員会事務局の説明でありました。

どうぞ中山の方も、双海の方も、郡中の方もいらっしゃいますし、どんどん忌憚のない御意見を賜りますよう。教育長、何か補足があればどうぞ。

○上岡教育長　宮田のほうから説明があったと思いますが、今年度より伊予市適正規模適正配置等の審議会を進めております。有識者において。それにおいて、適正規模適正配置になりますと、本当の今の現在の子供の数からいえば、旧伊予市内は今のところそういったところでは存続という形になっています。数からいえば中山の小学校は、先ほど市長が言われましたように、伊予市のほうに統合という形で、中山の小学校、佐礼谷小学校が、旧伊予市のほうに統合されますと、中学校を残す意味がありませんので、これも数からいえば統合という形になります。双海の今の現実の数、これからの数を考えると、小学校は双海町で一つ、3つが一つになるのが数的には望ましいのではないか。

ただ、いろいろな住民の考え方、地域の方の考え方等、また皆さんも御存じのとおり地域に学校がなくなると、双海、また下灘中学校、それから中山小学校等がなくなったとき、余計に過疎化が進んでいくような気もしますので、どれだけそのようなところを考えて残していくかというのは今後の検討ですけれども、そういう事も考えながらやっていく必要があるのではないかと思っております。先ほど言いましたように、予算の関係上、このように分けていくのがベストではないかと思っております。以上です。

○武智市長　それぞれ御意見もあろうと思いますから、せっかくの機会ですので、本当に忌憚のない、御意見を賜りたいと思います。矢野委員、どうぞ。

○矢野教育長職務代理者　御指名ですので失礼します。

この件については、昨年度も話が出ましたので、小さいところも残さないように、やっぱり住民が住んでいるので、冷房の設備を順々に、漏れなくつけていただきたいとお願いしたのですが、ずっと全体的に見て、説明も聞いていて、そしてやっぱりネックになったのは伊予市適正規模の配置等の審議会といいますか、それのことがやっぱり一番ネックになっていると思うのです。

そのことについても、何とかして子供が増えればいいということでしたが、どっちを向いて考えても、もう増える希望がなくなってきてはいかんのですけども、佐礼谷があのような状況、それから中山小についても、本当に激減している状況で、十二、三人卒業して、入るのが1人とか2人とかというふうな、複式になってももう小規模です。双海も中山も小規模の複式というので、もう子供たちにとってプラス・マイナスで考えてみたらマイナスのほうが大きいと

いう考え方を持っていると思います。保護者の考え方もあるとは思いますが、このような順番でいくのは、やむを得ないかなと思います、残念なことですが。このように考えながら話を聞かせていただいております。

○武智市長　ありがとうございました。

僕は、8月はいつも、盆踊りで中山地域をかなり回っていますけど、子供がいなくても、永木であれば永木小学校の体育館が有事の避難所になるのか、下のコミュニティーセンターがなるのか、そこらも含めて緊防債という形で、空調に関してはまた考えるけど、子供重視という位置づけの中で、既に永木小学校も野中小学校もなし、ただ運動会とか、盆踊りを盛んにやっているから、佐礼谷でもグラウンドで様々な行事をやっている。幾ら合併して南山崎小学校に通うといっても地域の運動会や盆踊がある以上は、佐礼谷小学校も中山小学校も僕は不滅で、まだまだ続いていく、永木も野中も含めて、そう思っています。

ただ問題は、今の時代の流れでここまで少子化が進んでいくと、高齢化っていうのは、オギャーと生まれてみんな同じ時間は過ぎるのだからしょうがないにしても、これからの時代、恐らく本当にこのままいったら伊予市という自治体よりも東予市、中予市、南予市、この3つの自治体ができて、今度は中四国道州制になってくると、今の話も、昔は言っていたよねっていう時代が必ず来ます。だから、何とかして国がいかに子育てに力を入れて、何とか子供が増えるとかというか、新しい命が生まれることを考えないと難しいかなと思っています。続いて、長見委員、どうぞ。

○長見委員　統廃合でいろいろと審議をしないといけない状況は分かります。第2期の空調設備に着手予定をしている4校ですが、この中の双海地域の下灘小学校の体育館が選ばれたのはどういう理由なのでしょうか。先ほど人数の関係とかもいろいろ説明があったと思いますが、一番少ないのではないのですか、今のとこは。単純な疑問です。

○武智市長　小笠原事務局長。

○小笠原事務局長　失礼いたします。それでは、長見委員の御質問にお答えいたしたいと思います。

今回の体育館空調整備につきましては、防災をつかさどっております危機管理課と協議を重ねながら進めております。当然、学校教育の中でも体育館空調は必要なのですが、あくまでも今回は緊急防災・減災事業債という避難所整備のための借金、起債を使わせてもらうということですので、避難所という観点から、まず第1期として上灘地区には双海中学校に整備されるというところでいくと、下灘地区には整備されるとこがないというところで、翠小学校も当然考えてはいるのですけれども、双海中学校がまず上灘地域の方の避難所となるということで、下灘地域の方を考慮して下灘小学校を2期目で上げさせてもらっているのが現状です。これは危機管理課との協議の中で、このような設定になっておりますので御理解いただけたらと思っております。以上です。

○長見委員　分かりました。ありがとうございます。もう一点、よろしいですか。
○武智市長　はい、どうぞ、長見委員。
○長見委員　小学校、中学校で13校あるのですけれども、伊予市の体育館の棟数として16ある、このあとの3つはどこが対象になっているのですか。
○武智市長　質問の意味、分かりましたか。宮田課長補佐。
○宮田学校教育課課長補佐　13は、あくまでも小・中学校の数でございまして、港南中学校と伊予中学校、双海中学校は武道場がございます。そちらも含まれた数字になります。
○武智市長　3校。13校と武道場3で16やね、はい。
○武智市長　そういう数字らしいです。続いて高橋委員、何かございますか。
○高橋委員　少子化の問題を、長年抱えていますので、一言では言い現わせない問題でしょうが、市長から御説明いただきましたように、現在いる子供たちに対して、どういうケアをしていくか、必要なものを同じように与えていくかという問題点と、もう一つは先ほど伺った防災という面があると、じゃあ防災の拠点としてどこを優先させていくのかっていうのが、うまくかみ合えばいいですけれど、伺っている限りはかみ合わないところもありますので、そこをどのようにすり合わせていくかの結果が、今ここで見せていただいているこの優先順位なのだろうということは非常に理解できます。

その上で、まだ決定事項ではないですから容易には言えませんが、恐らくは先ほどのように統廃合されてなくなってしまうかもしれない小学校、中学校に関しては、どこまでするのかというのは変ですが、先ほど見せていただいたコストの面や、耐久性を考えたときに、その辺の計算はどのようにされているのかが、ちょっと気になるところではあります。
○武智市長　分かる範囲で、回答をお願いします。小笠原事務局長。
○小笠原事務局長　それでは、高橋委員さんの御質問に私のほうからお答えします。

まず、体育館の空調整備に係る費用、経費でございますが、こちらにつきましては、今試算しているところで言うと、港南中学校はサブアリーナも併せて設置するということですので、2億5,000万円ぐらいかかると思います。ほかの3中学校と郡中小学校については、大体1億円から1億5,000万円ぐらいかかると試算しております。そういったことを踏まえて、今後第2期ということでこれを拡張していくのですが、恐らく現在の物価高騰等の影響で1年、2年ずれると、もう2割、3割工事費が変わってしまう恐れがございます。3期目、残りの数校に至った場合は、これが2億円、2億5,000万円になってこようかと思っております。

その中で、先ほど統廃合が進んでいくというところもあるのですが、実は、統廃合で、もし廃校になった学校でも、現在教室棟には全てエアコンがついておりますので、体育館にたとえ空調がつかなくても、避難施設として通常の一般教室が使えるようになるというところもありますので、そちらも考えながら、例えば佐礼谷でいくとほかの教室で全ての人数が収容できると今想定しておりますので、そういったことも踏まえて、今後、危機管理課と詰めながら、ど

こまで整備を続けていくのか、統廃合の状況も確認しつつ検討を重ねてまいりたいと思っております。以上でございます。
○高橋委員　ありがとうございます。
○武智市長　難しいところで、前に女性会議を開いたときに、市長は誰一人置き去りにしないとおっしゃっていますけれども、下灘の子供たちを置き去りにしていませんかと指摘されました。コミュニティーセンターにエアコンがないと。確かにそれはそうだけれども、お金がないという言い訳を僕は使いたくなくて、即座に大型ファンと、スポットクーラーを持っていったのですけど、ただあのコミセンに例えばエアコンを設置すると、通常バレーとかいろんな競技をやっている団体の使用料がめちゃくちゃに高くなる、そこも考える必要がある。しかし、命は天秤にはかけられないので、少ないところだから後回しっていうのは、切り口としては全くゼロなのだけど、やはりどうしても何百億円も余裕のある自治体ならぱっとやれるけど、そこだけは理解をしていただかねばなりません。やらないと言っているのではなく、ちょっとだけ待ってよと、2期工事まで待ってよという位置づけでしょう。
　どこまで物価が高騰するかは全く見えませんが、現実にその枠組みの中で、今さっき言ったように何で翠小が後回しなのか、ただ翠小は本当にエコな学校なので意外と涼しい部分があります。では、体育館は涼しいのかといったらそこは疑問符で、教室棟は、冬、まきストーブをやっているから、冬は温かいし、夏場は結構涼しくて、風通りのいい場所です。どちらにせよ1期、2期に分けて、さっき言った3期目という位置づけの中に、今の小笠原局長が言ったように、有事の際は教室でも避難者を受け入れられることができるということもありますので、また色々なお話が出てくると思います。私が翠地区の住民なら、ちょっと待てよというようなことを言うかもしれませんが、そこはしっかりと説明して、前向きに進めていきたいと思っています。上田委員、何かございますか。
○上田委員　空調方式のところの質問ですけども、冷暖房対流式が、想定している空調方式の中に入っているのですけど、この横のデメリットの発電設備が必要とあるのですけど、この発電設備というのは冷暖房だけの分ですか、それとも学校全体の照明も合わせての発電ですか。
○武智市長　宮田課長補佐。
○宮田学校教育課課長補佐　空調システムに関しまして発電設備が必要と記載しております内容ですけれども、これは有事の際、電力の供給がなくなった場合にエアコンを稼働させるための別の発電機が必要になってくる。それの設置に関して、施設の中にまたその設置用のスペースが必要になるということ。そういった意味合いっていうことで書かせていただいています。
　その発電の発電機を設置するのに別途さらに費用がかかってくるというところで、記載させていただいております。
○武智市長　要は、一旦有事の南海トラフの地震で7規模の地震が来ました、電気が止まりましたと。そこに今の質問は、エアコン、空調設備だけの発電の電源なのか、それとも施設のＬ

ＥＤのランプが消えたときもそれは援助をするのかという質問なんですけど。
○宮田学校教育課課長補佐　失礼いたしました。
　これに関しましては、今私が把握しているのは空調のみの稼働としております。
○武智市長　では、1つ聞きたいけど、エアコンは動くけどライトはつかないということ。それとも、別の補助策があるのですか。学校の電気、ＬＥＤ化しているのはいいけど、電源が止まりました、停電になりました、夜、緊急に真っ暗では、余計事故が起こるから、それはどうなのかなと。中塚課長。
○中塚学校教育課長　今回、御提出させてもらいました資料については空調のみでございます。先ほど宮田補佐が説明した発電機については、空調が動くか動かないかでございまして、学校施設の電気とはまた話が違うということです。ですから先ほど市長がおっしゃいましたように、一旦電気がシャットアウトしたときに、発電機があれば復旧するのは体育館のみで、学校施設についてはまだそこには電気は回らないという意味合いでございます。
○武智市長　ということは、うがった質問をされると、いやいや教室にはエアコンがあると言ったって、ちょっと意味がない話になってくるが、そこは今後しっかり補足するようにしておいてください。小笠原局長。
○小笠原事務局長　それでは、私のほうからお答えします。
　今回、整備の財源として、緊急防災・減災事業債ということで避難所の機能強化のお金を使うということで、学校機能を復旧させるというところは対象にならないことがあります。あくまでも体育館を避難所とした場合、体育館のエアコンを復旧させるために発電機をつける場合は起債の対象になるというところなんですが、確かに学校機能をどう復旧させるのかというところは、また別途私どもで考えていかないといけないというところと、将来的に統廃合された場合に普通教室を避難所として使う場合は、そちらも避難所の機能強化に当たりますので、そちらの復旧のために発電機をつけるのは起債の対象になるというところで、学校施設としての機能なのか、避難所としての機能なのかというところで財源が変わってきますので、災害が起きたときは、恐らく学校現場とすれば、もうそこは全部引き上げるのではないかと考えております。学校の機能復旧というところの発電機設置については、現状考えてないというところですので、将来的に統廃合された場合に、普通教室棟を避難所として使う場合は、改めて考えさせていただきたいと考えているところでございます。以上です。
○武智市長　危機管理課とよくよく相談して、例えば、この間、令和8年度の総合防災訓練を双海の体育館で実施したけれども、やはり夜に来て真っ暗では話にならんので、はっきり言えることは、やっぱり詰めるところはきちんと詰めておかないと、今のエアコンのことは分かるけれども、やはり子供だけの話ではない。緊防債を使うんだから、そこらはちゃんと危機管理課と教育委員会とで話しておいてください。ほかにございませんか。上岡教育長、何か言い残したことあります。

○上岡教育長　ないです。
○武智市長　ないですか。北岡課長さん、何かありますか。ないですか。
○北岡社会教育課長　はい。
○武智市長　あなた、佐礼谷だから。
○北岡社会教育課長　はい、そうです。非常に身につまされるお話で、市長さんが先ほどおっしゃっていただいて、子ども1人というのが本当に大きな1人で、今回児童8人のうちの1人がいなくなったことは、地域にとってすごい衝撃だったのです。以前、10年、15年前は地域も学校を存続したいというようなお話があったのですけれども、今は現実を見て、どういうふうにしていこうか。保護者のほうも、子どもに関わることですので、学校の統廃合も視野に入れて、それに伴って地域がどういうふうに今後進んでいくべきかというような方向で考えていかなければならないというようなことを、地域として考えているところです。
　あと、社会教育課の一員としては、この学校空調設備という中で、部活動地域展開のほうにも関わってきますし、条例等、またそれに合わせて検討していかないといけないなということで、職員とも考えておりますので、そういったところで各方面においてまた検討をしていきたいと思っております。以上です。
○武智市長　佐礼谷も児童が一人県外に行って、結局8人が7人になりました。僕の情報では2030年にゼロ人になると言ったけど、もしかしたら2029年にゼロになるのではと一瞬思ったり、一方で2031年には新しい命が生まれているので1人になるとか。でもさっきも言いましたけど、佐礼谷の矜持とか中山の矜持っていうのは間違いなくあるので、基本的に地域を地域住民が守っていく姿勢が一番強いのは中山だと思っていますから、もし廃校になっても、あくまで佐礼谷は佐礼谷魂、中山は中山魂ということでやっていかないと地域は保てません。そういった部分は十分に行政としても理解しているつもりですが、よろしくお願いいたします。その他、白石主事とか谷岡主幹、何かあったら、せっかくの機会ですので。
○谷岡学校教育課指導主幹　ございません。
○武智市長　白石さんは。
○白石学校教育課指導主事　せっかくいただいた機会ですので。3月まで学校現場にいましたので、先ほどから避難所の話が出ているのですけども、児童・生徒の学習の場としての体育館という点から見ると、夏場、7月、9月の初旬辺りは熱中症指数も体育館の中は高くて、活動をやめようかという話も、昨年度もございました。ですので、小学校のほうは第2期で、第1期の様子を見てという話もありましたけれども、小学校にもぜひとも早くつけていただけたらと思います。すいません。失礼しました。
○武智市長　これは、スピード感を持ってやる必要があります。南山崎が一番なのがよく分からないけれども、やっぱり将来性を見据えた上では、佐礼谷、中山が南山に来るなら南山が優先順位的に高いだろうと。別に、序列をつけることはおかしくて、伊予小学校のほうが当然、

学級数も多いのだからという位置づけもないので。ぜひ小笠原局長は地元ですので、よろしく頑張ってみてください。

○上岡教育長　すいません、ちょっといいでしょうか。

○武智市長　上岡教育長。

○上岡教育長　昨日、部活動の地域展開の推進会へ行ったのですが、学校統廃合のことについて、先ほど御意見を私申しましたが、あくまで数値側から考えるとこういうふうになるということを言っただけで、私としては、教職員時代に小さな学校へは行ったことがないので、伊予市の小さな学校を、現在の職に就いてから6年間、色々見させてもらいましたけど、本当に小さい学校を残したいなという気持ちは、多分市長もそうだろうと思うんですけども、本当にそういう気持ちはあります。

ただ、数値を見ると適正規模適正配置というのは複式学級の解消ということになりますので、統合しても複式学級が解消されないのであれば、やはりそれは別の形でということになってしまいます。それから、双海のいろんな地域の考え方、それから中山の考え方、色々な人の意見もいろいろ加味してこれから検討していくのですが、数値はあくまで数値の意見であり、決して本意ではないということをお伝えしたいと思います。

○武智市長　運動会のシーズンで、色々な学校の運動会へ行かせていただきましたけど、郡中小学校は郡中小学校なりに愛媛県で一番のマンモス校で、子供の生徒数よりも保護者の観戦が5倍ぐらい来ていたり。だけど、やはり翠小学校でしかできない運動会、要はリレーで走るときに一人一人が自己紹介をしながら走るとか。こんなこと郡中小学校でやったら、もう一晩以上かかるので。由並では由並にしかできない運動会とか、南山では南山。だけど、はっきり言えるのは、離島じゃないから1人っていう枠組みはなかなか難しい。幾ら佐礼谷といえども、逆に地域の思いというより、子供がかわいそうなのかなと僕は思うし、そして南山崎小学校へ行って中山中学校を残せと言ったときに、いやいやほかの友達はみんな港南へ行くのに、中山の子だけが中山中学校なのかと、これもまた、もう子供の気持ちになったらどうなのかなと。そこらは、なってみないと分からない部分もありますけど、皆さん方おアイデアとか色々な考え方とか、思いとかをいただきながら進めていくのがこの教育会議という位置づけだと思っていますので、今後ともいろんな御意見を賜りながら、それに沿って我々は議会への予算説明等をしていきますので、お願いをしたいと思います。ありがとうございました。

ただいまの御意見につきましては、今後の参考として検討してまいりたいと思います。

本日の議題は全て終了いたしました。

本日は、皆さん方、御多忙にもかかわらず御出席を賜り、貴重な御審議をいただきまして誠にありがとうございます。教育委員さんをはじめ皆様の御協力に感謝を申し上げ、議長の任を解かせていただきます。ありがとうございました。

○小笠原事務局長　それでは、以上で令和8年度第1回目となります伊予市総合教育会議を閉会

いたします。皆様、御起立をお願いいたします。一同、礼。

○一同　お疲れさまでした。

午後2時53分　閉会